

ジェネリック医薬品を利用しよう

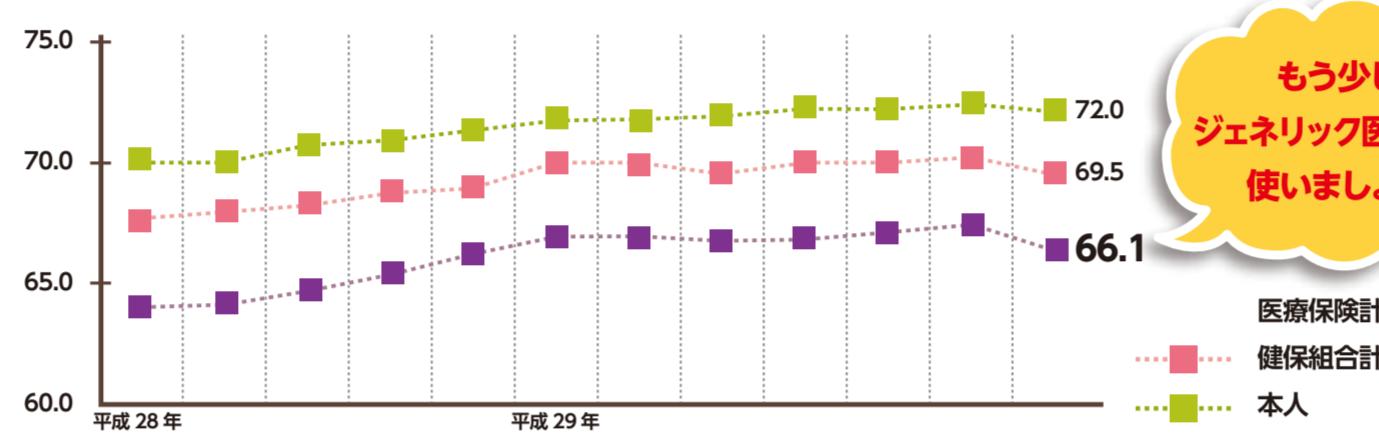
成分や効能は同等で、新薬に比べ低価格のジェネリック医薬品。

いまや知らない人は少ないかもしれません。

まだ欧米よりも普及が遅れています。

そのメリットを知り、もっと利用するようにしましょう。

ジェネリック医薬品の普及状況(数量ベース) (平成28年8月～平成29年7月)



上のグラフを見てわかるように、ジェネリック医薬品の利用者は少しずつ増えているものの7割前後。厚生労働省が掲げる早期の8割達成にはまだ遠い。とくに、組合員本人というより家族への周知・普及が遅れている。

なぜジェネリック医薬品は安く安全か

価格が安い理由

新薬(先発医薬品)は、開発に10~20年の年月と数百億円にのぼるコストがかかる

特許が切れると同じ有効成分の薬を製造できるようになり、多くの会社の参入が可能に

ジェネリック医薬品は莫大な開発コストがかからないため、価格を抑えることができる

安全性が劣らない理由

有効成分が先発医薬品と同じ

厚生労働省の厳しい試験に合格したものに限る

独自の改良を加えて、服用しやすくしたものもある

実際にジェネリック医薬品を使うと

価格は新薬に比べ4~5割程度、なかにはそれ以上安くなる場合もあります。たとえば高血圧が続き、運動や食事などで改善しない場合、降圧作用のある薬を飲まなければなりません。降圧薬は長期間服用する必要があるため、ジェネリック医薬品の節約効果は大きくなるのです。

主な高血圧治療薬(一般的な用法・用量で計算)

先発医薬品名	ジェネリック医薬品名	1カ月薬価差(円)*	1年間薬価差(円)*
アダラートCR錠 20mg	ニフェジピンCR錠 20mg「サワイ」	145.8	1,773.9
ノルバスク錠 10mg	アムロジピン錠 10mg「JG」	297.9	3,624.5
レニベース錠10	エナラブリルマレイン酸塩錠 10mg「JG」	913.5	11,114.3

*各薬剤の規格(含有される成分量)によって差異が生じることあり
*金額差は3割負担の場合で記載(平成29年4月時点での試算)
(資料)日本調剤株式会社

けんぽお知らせ板